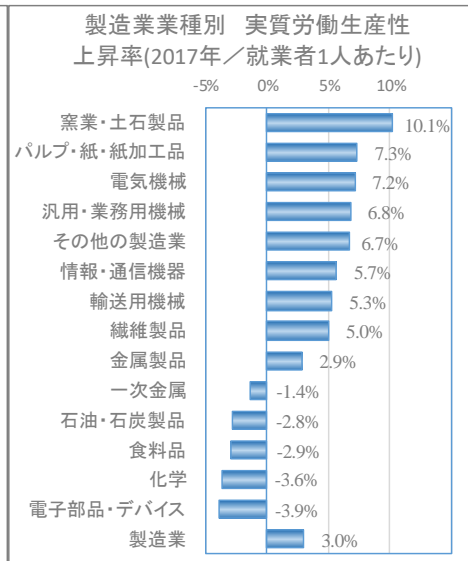
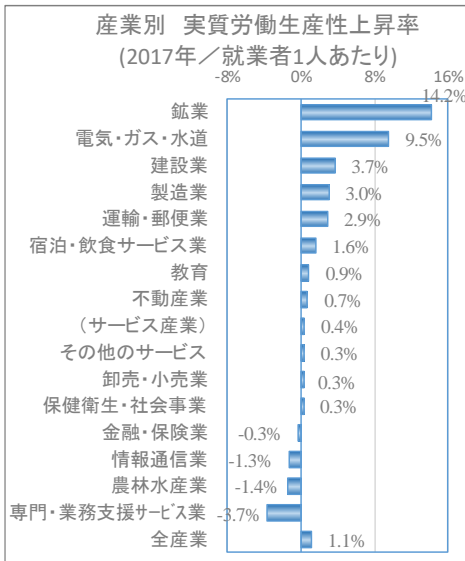
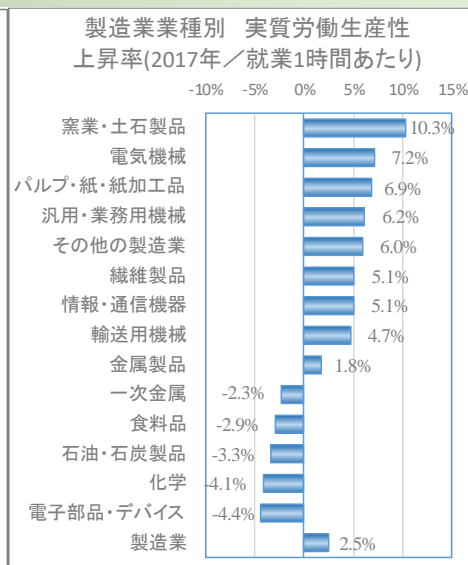
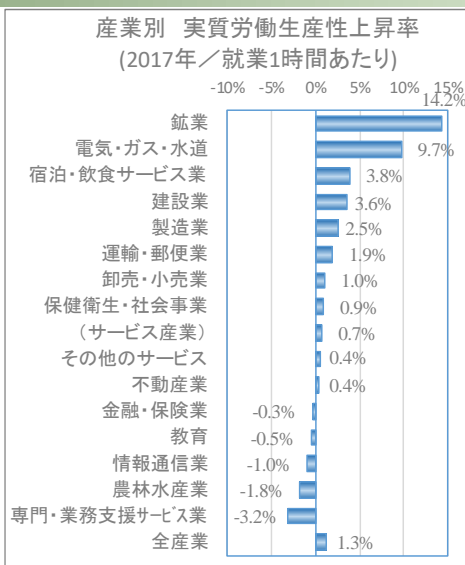


主要産業の実質労働生産性上昇率

- 実質労働生産性上昇率は、1時間あたり・1人あたりとも鉱業が最も高く、電気・ガス・水道や宿泊・飲食サービス業、建設業、製造業などもプラスとなった。
- サービス産業は就業1時間あたりが+0.7%、就業者1人あたりが+0.4%。電気・ガス・水道や宿泊・飲食サービス業、運輸・郵便業などで労働生産性が上昇したことがサービス産業の生産性上昇に寄与した。
- 製造業では、実質ベースでみた付加価値が拡大(+3.7%)し、労働時間(+1.1%)や就業者数(+0.7%)は微増傾向にあることから、就業者1時間あたりで+2.5%、就業者1人あたりで+3.0%となった。



※内閣府「国民経済計算」をもとに日本生産性本部作成 ※サービス産業:電気・ガス・水道,卸売・小売業,運輸・郵便業,宿泊・飲食サービス業,情報通信業,金融・保険業,不動産業,専門・業務支援サービス業,公務,教育,保健衛生・社会事業,その他のサービスにより構成